

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成23年6月2日 (2011.6.2)

【公表番号】特表2006-519823(P2006-519823A)

【公表日】平成18年8月31日 (2006.8.31)

【年通号数】公開・登録公報2006-034

【出願番号】特願2006-505920(P2006-505920)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/7076 (2006.01)

C 0 7 H 19/167 (2006.01)

A 6 1 P 25/04 (2006.01)

A 6 1 P 25/02 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/18 (2006.01)

A 6 1 P 31/18 (2006.01)

A 6 1 P 19/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 15/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/22 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 21/00 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 19/06 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 37/02 (2006.01)

A 6 1 P 21/04 (2006.01)

A 6 1 P 1/00 (2006.01)

A 6 1 P 19/10 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

C 0 7 H 19/16 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/7076

C 0 7 H 19/167

A 6 1 P 25/04

A 6 1 P 25/02 1 0 1

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 1/18

A 6 1 P 31/18

A 6 1 P 19/00

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 9/00

A 6 1 P 15/00

A 6 1 P 31/22

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 21/00

A 6 1 P 3/10
 A 6 1 P 29/00 1 0 1
 A 6 1 P 19/02
 A 6 1 P 29/00
 A 6 1 P 19/06
 A 6 1 P 11/00
 A 6 1 P 9/10
 A 6 1 P 37/02
 A 6 1 P 21/04
 A 6 1 P 1/00
 A 6 1 P 19/10
 A 6 1 P 43/00 1 1 1
 C 0 7 H 19/16

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年4月12日(2011.4.12)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

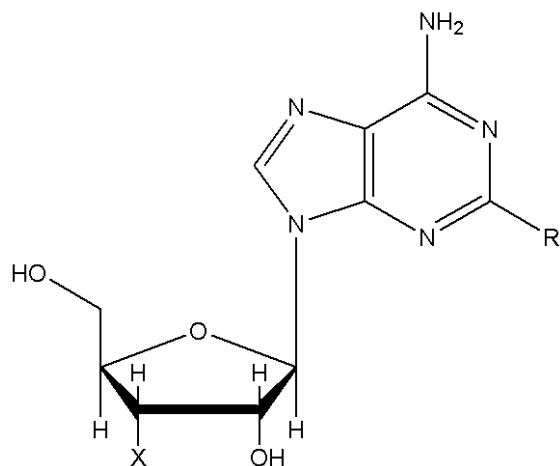
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

疼痛予防、治療、または改善のための薬剤製造における式 (I) :

【化 1】

(I)



[式中、R は C₁ - 4 アルコキシ、および X は H または OH であり、2 - メトキシアデノシンは除く]

の化合物の使用。

【請求項 2】

疼痛が痛覚過敏である、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 3】

痛覚過敏が神経因性疼痛である、請求項 2 に記載の使用。

【請求項 4】

疼痛が知覚神経への直接的な損傷か、知覚神経により神経支配されている組織の損傷に起因する、請求項 1 - 3 のいずれかに記載の使用。

【請求項 5】

癌疼痛、膵臓疼痛、骨盤／会陰の疼痛、H I V 疼痛、慢性神経因性疼痛、腰痛（Lower Back Pain）、脊椎手術の失敗による疼痛、背痛、術後疼痛、身体的外傷後の疼痛（銃弾、交通事故、火傷を含む）、心臓痛、胸痛、骨盤疼痛／P I D、関節疼痛（腱炎、滑液包炎、急性関節炎）、頭痛、腸痛、幻肢痛、産科の疼痛（分娩／帝王切開）、急性ヘルペス帯状疱疹の疼痛、急性膵炎の強烈な疼痛（癌）の予防、治療、または改善のための、あるいは糖尿病性神経障害、多発神経障害、線維筋痛症、筋・筋膜疼痛症候群、骨関節炎、ヘルペス後神経痛、関節リウマチ、坐骨神経痛／腰部の神経根障害、脊髄狭窄症、側頭下顎の関節障害、三叉神経痛、腎臓痛、月経困難症／子宮内膜症に起因する、または関連する、神経因性疼痛の予防、治療、または改善のための請求項 1 - 4 のいずれかに記載の使用。

【請求項 6】

痛覚過敏が炎症性疼痛である、請求項 2 に記載の使用。

【請求項 7】

疼痛が炎症性および／または自己免疫性の組織損傷に起因する、請求項 1、2、または 6 いずれかに記載の使用。

【請求項 8】

腸痛、癌疼痛、背痛、術後疼痛の予防、治療、または改善のための、あるいは関節リウマチ、骨関節炎、リュウマチ様脊椎炎、痛風性関節炎、および他の関節炎状態、癌、H I V、慢性肺性炎症性疾患、ケイ肺症、肺性肉腫、骨吸収の疾患、再灌流損傷（虚血性症状後の再灌流に起因する器官損傷を含む）、自己免疫性損傷（多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症を含む）、移植片対宿主の拒絶反応、同種移植の拒絶反応、感染症起因の発熱および筋肉痛、線維筋痛症、A I D S 関連合併症（A R C）、ケロイド形成、瘢痕組織形成、クローン病、潰瘍性大腸炎およびパイレシス、過敏性腸症候群、骨粗鬆症、脳性マラリアおよび細菌性髄膜炎に起因する、または関連する、炎症性もしくは他の疼痛の予防、治療、または改善のための、請求項 1、2、6、または 7 に記載の使用。

【請求項 9】

6 m g / k g 未満で投与される、請求項 1 - 8 のいずれかに記載の使用。

【請求項 10】

少なくとも 0 . 0 1 m g / k g で投与される、請求項 1 - 9 のいずれかに記載の使用。

【請求項 11】

0 . 2 ないし 1 m g / k g で投与される、請求項 1 - 10 のいずれかに記載の使用。

【請求項 12】

対象における疼痛の予防、治療、または改善のための医薬組成物であって、式（I）の化合物を含む医薬組成物。

【請求項 13】

疼痛が痛覚過敏である、請求項 12 に記載の医薬組成物。

【請求項 14】

痛覚過敏が神経因性疼痛である、請求項 13 に記載の医薬組成物。

【請求項 15】

疼痛が知覚神経への直接的な損傷か、知覚神経により神経支配されている組織の損傷に起因する、または関連する、請求項 12 - 14 のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項 16】

癌疼痛、膵臓疼痛、骨盤／会陰の疼痛、H I V 疼痛、慢性神経因性疼痛、腰痛（Lower Back Pain）、脊椎手術の失敗による疼痛、背痛、術後疼痛、身体的外傷後の疼痛（銃弾、交通事故、火傷を含む）、心臓痛、胸痛、骨盤疼痛／P I D、関節疼痛（腱炎、滑液包炎、急性関節炎）、頭痛、腸痛、幻肢痛、産科の疼痛（分娩／帝王切開）、急性ヘルペス帯状疱疹の疼痛、急性膵炎の強烈な疼痛（癌）の予防、治療、または改善のための、あるいは糖尿病性神経障害、多発神経障害、線維筋痛症、筋・筋膜疼痛症候群、骨関節炎、ヘルペス後神経痛、関節リウマチ、坐骨神経痛／腰部の神経根障害、脊髄狭窄症、側頭下顎の関節障害、三叉神経痛、腎臓痛、月経困難症／子宮内膜症に起因する、または関連する

、神経因性疼痛の予防、治療、または改善のための、請求項 1 2 - 1 5 のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項 1 7】

痛覚過敏が炎症性疼痛である、請求項 1 3 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 8】

疼痛が炎症性および / または自己免疫性の組織損傷に起因する、請求項 1 2、1 3、または 1 7 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 9】

腸痛、癌疼痛、背痛、術後疼痛の予防、治療、または改善のための、あるいは関節リウマチ、骨関節炎、リュウマチ様脊椎炎、痛風性関節炎、および他の関節炎状態、癌、H I V、慢性肺性炎症性疾患、ケイ肺症、肺性肉腫、骨吸収の疾患、再灌流損傷（虚血性症状後の再灌流に起因する器官損傷を含む）、自己免疫性損傷（多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症を含む）、移植片対宿主の拒絶反応、同種移植の拒絶反応、感染起因の発熱および筋肉痛、線維筋痛症、A I D S 関連合併症（A R C）、ケロイド形成、瘢痕組織形成、クローン病、潰瘍性大腸炎およびパイレシス、過敏性腸症候群、骨粗鬆症、脳性マラリアおよび細菌性髄膜炎に起因する、または関連する、炎症性もしくは他の疼痛の予防、治療、または改善のための、請求項 1 2、1 3、1 7、または 1 8 に記載の医薬組成物。

【請求項 2 0】

化合物が $6 \text{ mg} / \text{kg}$ 未満で投与される、請求項 1 2 - 1 9 のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項 2 1】

化合物が少なくとも $0.01 \text{ mg} / \text{kg}$ で投与される、請求項 1 2 - 2 0 のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項 2 2】

化合物が 0.2 ないし $1 \text{ mg} / \text{kg}$ で投与される、請求項 1 2 - 2 1 のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項 2 3】

化合物が経口、非経口、舌下、経皮、くも膜下腔内、経粘膜、静脈内、筋肉内、皮下、局所、または吸入投与される、請求項 1 2 - 2 2 のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項 2 4】

化合物が 1 日につき 2 または 3 回投与される、請求項 1 2 - 2 3 のいずれかに記載の医薬組成物。

【請求項 2 5】

対象がヒトである、請求項 1 2 - 2 4 のいずれかに記載の医薬組成物。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 8】

本発明により疼痛（特に痛覚過敏）の予防、治療、または改善のための鎮痛剤（特に抗痛覚過敏剤）として式（I）の化合物の使用が提供され、該疼痛は、糖尿病性神経障害、多発神経障害を含む神経障害、癌疼痛、線維筋痛症、筋・筋膜疼痛症候群、骨関節炎、膵臓の疼痛、骨盤 / 会陰の疼痛、ヘルペス後神経痛、関節リウマチ、坐骨神経痛 / 腰部の神経根障害、脊髄狭窄症、側頭下顎の関節障害、H I V 疼痛、三叉神経痛、慢性神経因性疼痛、腰痛（Lower Back Pain）、脊椎手術の失敗による疼痛（Failed Back Surgery pain）、背痛、術後疼痛、身体的外傷後の疼痛（銃弾、交通事故、火傷を含む）、心臓痛、胸痛、骨盤疼痛 / P I D、関節疼痛（腱炎、滑液包炎、急性関節炎）、首痛、腸痛、幻肢痛、産科の疼痛（分娩 / 帝王切開）、腎疝痛、急性ヘルペス帯状

疱疹の疼痛、急性膵炎の強烈な疼痛（癌）、月経困難症／子宮内膜症に起因する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0054

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0054】

式（I）の化合物は、神経障害および／または炎症性疾患起因の疼痛（特に痛覚過敏）の治療ために経口投与が可能な鎮痛剤（特に痛覚過敏剤）として用いられることができ、該疼痛は糖尿病性神経障害、多発神経障害、癌疼痛、線維筋痛症、筋・筋膜疼痛症候群、膵臓疼痛、骨盤／会陰の疼痛、背痛、ヘルペス後神経痛、関節リウマチ、坐骨神経痛／腰部の神経根障害、脊髄狭窄症、側頭下顎の関節障害、HIV疼痛、三叉神経痛、慢性神経因性疼痛、腰痛（Lower Back Pain）、脊椎手術の失敗による疼痛、術後疼痛、身体的外傷後の疼痛（銃弾、交通事故、火傷を含む）、心臓痛、胸痛、骨盤疼痛／PID、関節疼痛（腱炎、滑液包炎、急性関節炎）、頭痛、腸痛、幻肢痛、産科の疼痛（分娩／帝王切開）、腎臓痛、急性ヘルペス帯状疱疹の疼痛、急性膵炎の強烈な疼痛、癌疼痛、月経困難症／子宮内膜症、関節リウマチ、骨関節炎、リュウマチ様脊椎炎、痛風性関節炎、および他の関節炎状態、癌、HIV、慢性肺性炎症性疾患、ケイ肺症、肺性肉腫、骨吸収の疾患、再灌流損傷（心筋梗塞、脳卒中のような虚血性症状後の再灌流に起因する器官損傷を含む）、自己免疫性損傷（多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症を含む）、移植片対宿主の拒絶反応、同種移植の拒絶反応、感染症起因の発熱および筋肉痛、AIDS関連合併症（ARC）、ケロイド形成、瘢痕組織形成、クローン病、潰瘍性大腸炎およびバイレシス、過敏性腸症候群、骨粗鬆症、脳性マラリアおよび細菌性髄膜炎を含む。